

授業科目名：特殊講義Ⅲ

担当教員名：遠藤哲哉、池田享誉、井上隆一郎

授業科目概要：

NPO法の制定以後、非営利組織やボランティア団体が法人格を得て事業展開する動きが拡大している。また、社会的課題を社会的事業として展開するいわゆる社会的企業の取り組みも増加している。このような状況を適確に分析するためには、経営戦略、組織マネジメント、公会計論、公共マーケティング、リーダーシップ論など、経営学や組織論、会計学に関連する知見を大いに活用し、包括的な視点からフィールドワークを援用し、実証的、理論的に研究していく必要がある。また、研究の成果は、実践に結びつけ、研究と実践、評価を一体的に行うアクション・リサーチの方法が有用である。

本講義では、社会的企業やNPOにおけるマネジメント、さらに自治体行政とのパートナーシップ、ソーシャル・イノベーションなどに焦点を絞り、フィールドに出ていき、研究、実践、評価を現場の職員らと協働で創っていくアクション・リサーチの方法を用いながら、実践的、理論的に進めていく。

ただし、フィールドやテーマの選定については、最終的に履修希望者の関心と教官との話合いに基づいて決定する。

履修上の留意事項：

なお、経営戦略論、非営利組織論や自治体経営論、会計学のみならず、広く公共政策、組織マネジメント、リーダーシップ、人材育成、及び、プロセスコンサルテーション等の実践的技術等に関心のある学生、社会人の受講も歓迎する。

教科書・参考書（参考文献）

書名：現代戦略分析
著者／編者：RM Grant
出版社：中央経済社
出版年：2008年

書名：非営利法人会計小六法
著者／編者：日本公認会計士協会
出版社：中央経済社
出版年：最新版

書名：成長する組織とリーダーのつくり方
著者／編者：ロバート・J アンダーソン&ウィリアム・A アダムズ
出版社：中央経済社
出版年：2020年

書名：人と人の「つながり」に投資する企業
著者／編者：ドン・コーヘン
出版社：ダイヤモンド社
出版年：2003年

書名：企業戦略論
著者／編者：JBバーニー
出版社：ダイヤモンド社
出版年：2003年

書名：非営利組織会計概念形成論
著者／編者：池田 享誉
出版社：森山書店
出版年：2007年

評価方法及び判定基準：

毎回の授業参加の程度、内容、また期末レポートを含めて総合的に評価する。

授業目標及び進め方：

フィールドを特定し、履修する学生が主体的に関わり、担当教員がそれを支援する形で行っていく。具体的には、社会的企業、NPOや自治体経営の組織マネジメント、経営戦略、非営利会計のプロセスを履修学生が主体的に考察し、担当教官が、その考察過程を指導、助言しつつ、協力していただく団体や企業と大学が連携しながら実施するものである。

なお、担当する3人の教官が、それぞれの専門を活かして、指導する。担当教官の一人井上は、東京にいるため、授業に当たっては、フィールドワークを受講生と相談しながら青森市以外（東京等）で行い、授業はWeb会議の形式で行う予定である。フィールドワークを行う現場の進展度合いや内容如何によって、授業スケジュールは柔軟に設定されるが、概ねフィールドワークは、1教官毎に1回（1回4時限分）行い、全体で3回（12時限）。その他、オリエンテーション1回（1時限）、実践のまとめ、評価、理論的検討1回（2時限分）を実施する。フィールドの決定は、最終的に履修希望者と教官との話し合いで決定する。

また、全体的に授業やフィールドワークの半分は、WEB会議を用いた遠隔授業の形式を取り入れ、実施することを考えている。この点については、オリエンテーションで相談したい。

◆ 授業進行計画

<p>第1回 ～ 第2回</p>	<p>オリエンテーション（3人の担当教官の紹介） ねらい、フィールドワークのスケジュール、評価</p>
<p>第3回 ～ 第12回</p>	<p>テーマ： 非営利組織、自治体経営、ソーシャル・イノベーションの検討 ～経営戦略、組織マネジメントと非営利組織会計の観点から</p> <p>内容：（各1回ずつ全体で3回のフィールドワーク）</p> <p>NPOや社会的企業、自治体経営、ソーシャル・イノベーション等を考察する上で、経営戦略論、組織マネジメント論、非営利組織会計論の考え方と方法について、検討を深める。その際、非営利組織の経営戦略、会計、組織文化、ソーシャル・キャピタル（信頼・ネットワーク）の醸成、コミュニケーション、リーダーシップ、人材育成、ワークショップの方法など様々なアプローチから検討を深めていく。</p> <p>*いくつかの研究視点</p> <p>（経営戦略論） ゴール、バリューなどマインド面の変革、業界分析、競争戦略、マーケティング戦略などツールの理解と使いこなしを、非営利組織（NPO）等の現状に即して、諸理論や実践の知識をスタッフが取得できるようにする。このことを通じて、非営利組織や公共施設における戦略コンテンツのあり方とコンサルティングのプロセスを学習していく。</p> <p>（経営組織論、リーダーシップ論） 社会的企業、非営利組織の取り組みは公共政策と様々な点で関係を持つ。つまり、NPO、さらに自治体行政とのパートナーシップや連携は、重要な検討課題である。しかし、十分な連携や研究が行われているとはいえない。これらの検討を踏まえ、公共事業やサービスにおけるソーシャル・イノベーションの創発プロセスの解明へと関連づけていく。</p> <p>（非営利組織会計論） 非営利組織の会計は企業会計へと統一化される方向で改訂が重ねられているが、非営利組織の会計には企業会計とは異なる特殊性がいくつか存在する。それらの特殊性が、なぜ生じるのか、それを実践を通じて体験し、理解してもらう。わが国の将来を考えたとき、これまで行政が担ってきた役割を非営利組織が担っていくことが社会的に必要となり、その期待に応えていくための実践力の獲得を目的とした活動を行ってもらう。</p> <p>教科書／参考書</p> <p>「企業戦略論」(JB バーニー)</p> <p>「現代戦略分析」(RM グラント)</p> <p>「新しい人間管理と問題解決」(E.シャイン)</p> <p>「アメーバ経営」(稲盛和夫)</p> <p>「成長する組織とリーダーのつくり方」(ロバート・J アンダーソン&ウィリアム・A アダムズ)</p> <p>「組織行動の考え方」(金井壽宏他)</p> <p>「非営利法人会計小六法」(日本公認会計士協会)</p> <p>「非営利組織会計概念形成論」(池田 享誉)</p>

第14回 ～ 第15回	フィールドワークのまとめ 1回分（3人の担当教官参加） フィールドワークのプロセス フィールドワーク、実証的研究の内容反省 フィールドワークの全体的評価 フィールドワークから得られた教訓 残された今後の課題
-------------------	--